

武豊町教育委員会との話し合いのまとめ

2017年10月23日(月) 16:00~

参加者 教育委員会：加藤雅也 教育長
木村部長 荒井課長 田村課長補佐
中根 指導主事 木下 指導主事
知教労：岡田康 榎原賢也 柴田洋子

1 勤務条件の適正化、労働安全衛生委員会の遵守および周知について

<知教労>職員が休憩を取れないまま7時間45分連続勤務をしたことを、管理職が現認した場合、拘束を解除するということを各職場で校長が話すように指導してほしい。

また、出退校時刻の記録について、45分の休憩が取れない場合は、勤務時間の設定を7時間45分にするよう指導してほしい。

最低月1回は定時(遅くとも6時)に退校する日を設定してほしい。

割り振り簿は、誰が見てもわかる、使いやすい形式になるよう指導してほしい。

(町教委) まず各校の現状を聞き、連続して勤務をしているか、現状を把握したい。休憩がとれないまま7時間45分連続で勤務とならないよう配慮することを校長会で話す。

出退校時刻の時間の設定や、割り振り簿の運用、定時退校日の設定等は、各校の状況を確認する。また、要望があったことを校長に伝える。

<知教労>県から出ている「教員の多忙化解消プラン」では、30年度は在校時間80時間超の教員の割合を小学校5%以下中学校20%以下にするといった目標をもっているが、武豊町教育委員会としてはどう考えているか。

(町教委) 仕事の量を減らすこと、予算や人を増やすことが必要と考えている。予算については、現状では厳しいが努力はしていく。また、PTAにも声をかけて、教員の多忙化解消について理解を求めていきたい。

多忙化解消プランが県教育委員会から出ていることを各学校で紹介するように、校長に声を掛けていく。

昨年立ち上げた「多忙化解消プロジェクトチーム」によって作成されたプランを各校の校長に提示している。各会で再度検討のうえ具体的なプランを、職員に提示する。

ボランティア活動の体制の見直しや、体育大会の運営の中心を外部団体に移し、学校ごとのチーム出場を止めたことなど、教員の仕事の軽減を図っている。他の大会についても、運営の仕方を各関係機関に依頼中。

↑

<知教労>陸上大会の件は多忙解消のために本当によかった。関係団体の対応に感謝したい。引き続きボランティア活動の見直しにご尽力いただきたい。

<知教労>部活の見直しとして、朝部活廃止を働きかけてほしい。

(町教委) 朝部活は学校に任せているのが現状である。すぐになくすということは、部活ごとの事情もあるので難しいが、なくす方向も検討する必要はある。

<知教労>学校訪問の見直し、特に指導案の簡略化、日程の短縮、学校の要請に合わせた訪問などをお願いしたい。

(町教委) 学校訪問の時期については、市町ごとに決めることができるので、要望は聞いている。

指導案の形式や日程については、町独自では変更することは、現在のところ考えていない。

訪問時の授業については、何をその授業で提案したいかという意図がはっきりすることが重要。提案授業であって、事前に過度な検討は必要ない。

学校訪問の要項は各学校に製作をまかせている。提出期限が、業者へ依頼することで早くなり、負担であれば、学校で作るなどの工夫をして、負担軽減を図ってほしい。

<知教労>持ち時間数の公平化について、教務、校務主任も専科教諭として責任をもって成績をつける教科を受け持つよう指導してほしい。町内の学校でも、図工などを受け持つ、成績もつけている校務主任もいる。

(町教委) 補欠対策などのこともあるので、学校の実態に応じてやってもらうしかない。

<知教労>出張回数の軽減をお願いしたい。

(町教委) 出張回数は前よりは減っていると思うが、校長会等で会議の精選については話していく。

<知教労>給食主任の給食会計の仕事は大変負担なので止めさせてほしい。

(町教委) 教員が給食会計をやることについては、問題意識をもっているが、予算的に事務職を増やす余裕はない。承っておく。

<知教労>作品募集に関わる事務の軽減をお願いしたい。各団体に、選考を自分たちで行ったり、作品を取りに来たりするよう、言っていただきたい。

(町教委) 状況を聞くにとどまる。

<知教労>各学校へ労働安全衛生委員会の設置を呼びかけてほしい。

(町教委) 校長会等で要望があったことを、話す。

2 教育諸条件の充実について

<知教労>各教室へのエアコンの設置を検討してほしい。

(町教委) 今のところは、難しい。

3 その他

<知教労>C4thについて、弾力的な運用をするよう、指導してほしい。

(町教委) 必ずしもC4thを使って成績をだす必要はない。成績についての説明責任が果たせるなら、学校ごとに検討すればよい。そのことについては、教務主任者会でも話していきたい。